

2017



平成 29 年 6 月 発行

No. 104

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市 泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018 (823) 2708

発行者 今野 昌雄

編集者 鈴木 裕子

支部総会開催

平成二十九年度 支部総会開催

平成二十九年度秋田支部総会は、四月八日午前十一時から、秋田市の「協働大町ビル」において開催された。

総会に先立ち、昨年九月逝去した阿部鉄男会員、本年四月五日に逝去した安藤武俊名誉顧問へ黙祷を捧げた。

総会は、鈴木（裕）副支部長の進行で、会員総数五十九名、出席会員二十名、委任状提出会員二十八名を確認。

はじめに、今野支部長から、森吉集会の盛会と支部運営への協力に感謝する旨の挨拶があった。

続いて、三浦眞六委員を議長に指名して、案件の審議が行われた。

案件一 平成二十八年度の事業について鈴木（裕）副支部長が報告。

森吉集会の実施にあたり、役員会の開催が多かったこと、春秋の支部山行、公益的事業として太平山前岳周辺や歩道の一部の刈り払いや太平山山開き市民登山への協力を行った等。

会報の発行は四回、新たに支部だよりを二回発行。

支部長会議、支部担当者会議、全国支部懇談会、本会年次晩餐会出席等の報告。

新年会を再開し、会員同士の交流を図ったこと、また、中央地区山岳協会の依頼により、太平洋遭難者捜索にも協力したこと等が報告された。

案件二 平成二十八年度収支決算について、石川会計担当委員が報告。高橋会計監事から、四月一日、秋田市のアルヴェ市民交流室において行われた会

計監査の結果、関係書類が適正に処理されていることが報告され、事業及び決算は承認された。

案件三 支部規約の改訂について・会費の改訂 昨年の総会において承認された支部年会費を二千円に改める。

・本会の準会員規約に伴い、支部規約に準会員制度を加える。いずれも承認。

案件四 平成二十九年度事業計画は、総会、役員会の開催について説明。

鎌田委員から春秋の山行についての説明。東島海山や甚吉森を計画。

また、今年度新たに提案された声かけ山行（有志山行）について、従来は個人山行として活動してきたものであり、事業として提案することはおかしいのではないかと、また、万一の事故が発生した場合等について活発な意見交換があった。

会員同士の交流を図るためにも事業とすべき、支部山行及び声かけ山行は、自己の意思で参加するものであり、自己責任であるべきとの大方の意見であった。

会報の発行は三回を予定。支部だよりは随時の発行。

東北地区集會、全国支部懇談会等への参加、県内各山岳団体との交流、山の日制定事業に関する秋田県自然保護課の登山道等整備事業の後援等の説明があった。

案件五 平成二十九年度予算案について石川会計担当委員から、支部会費の増、本会の助成金・補助金の減額等に

ついて説明。事業計画、予算案ともに承認された。

議事終了後、その他として、三十一年度は役員改選がある。役員は会員が交代で務めることが理想的であり、会員の協力をお願いしたい。

三十一年度は、支部設立六十周年を迎える。四十周年、五十周年の記念行事を参考にして検討を始めた。

鳥海山林道工事による交通規制期間の情報等々が周知された。

また、佐藤和志会員から、秋田駒ヶ岳が「十和田・八幡平国立公園」に所属していることから「十和田」を切り離し、「南八幡平国立公園」とする希望案があるので、山の会等に出席する機会があったら、その旨を発言してほしいとの要望があった。



総会終了後の懇親会は、佐藤和志会員の乾杯の発声で始まり、続いて、秋田県スポーツ功労賞を受賞した佐々木民秀顧問から、身に余る賞を頂戴し、推薦して下さった今野支部長始め、関係団体各位に感謝、まだ現役であり、皆さんと共に、今後も意義ある山行を楽しみたいのでよろしくお願いしたいとの感謝のご挨拶があった。

今野支部長からは、佐々木顧問のこれまでの山歴や活動の経緯等を話され、益々お元気で後輩の指導に当たっていただきたい旨のお祝いの言葉が寄せられた。

懇親会は、山情報の交換、お互いの活動状況等で、会員相互の交流を深め、午後三時三十分頃、寺田会員のお開きの乾杯で散会した。

総会・懇親会共、会員の活発な意見や話題にあふれ、有意義な会であった。

御芳志 厚くお礼申し上げます。

一万円 故大山健助氏ご遺族

八千円 進藤昭 長岩嘉悦

五千円 安藤武俊 佐々木民秀

佐藤昭義

三千円 鈴木裕子

清酒 今野昌雄 佐藤博

出席者 佐々木民秀 福田光子

佐藤和志 今野昌雄 柳田勇悦

鈴木裕子 鎌田倫夫 佐藤 博

高橋忠雄 寺田新一 川口廣志

石川祐子 柴田 勸 三浦真六

佐々木長秀 安藤金栄 熊谷光子

高橋洋二 澤田石一夫

懇親会のみ 小笠原義雄

(事務局長 鈴木裕子 報告)

春の里山山行 東鳥海山 佐々木悦子

昨日までの天気が一変した快晴の中、五月十七日(水)の里山山行「東鳥海山」に参加した。

「東鳥海山」の山名については、鳥海山の真東に位置し、神室山(南鳥海)と並び、遠くから仰ぎ望む姿に堂々たる威風があり、西の鳥海山に相対していることから両山の威厳に対してもふさわしく「東鳥海山」と位高く称号されたとの事。(東鳥海山神社里宮資料館パンフより)

集合場所である「おがち」道の駅から登山口のある「東鳥海山参道入口」の標柱を経由し、九台の車を連ね、果樹園の中の林道を進む。

各自で準備運動を行い、支部長からバナナを頂き、鎌田委員から新参加者の紹介も行われた。

石川委員を先頭に九時二十五分出发。途中で衣類の調整のための小休止。山菜のワラビ・アイコ・タラノ芽・ゼンマイの雌雄の観察をしながら山道を外れては、あつという間に袋いっぱい取った会員も。すぐ足元には、二輪草やカタクリの花等の群生も見られ、踏みつけられない様に進む。登山道にはタイヤの跡が見られ、旧駐車地まで続いていた。ここには十時到着。

つづら折りの急登が続くが、その辺も山菜の宝庫。心地良い風を感じる尾根筋に出てさらに進むと小祠がある。そこで暫しおやつタイム。金太郎飴黒糖・仙台菓子等でパワーを頂く。鳥海山に向って建つ福田神社には、

十時四十分に着。

すぐ裏には関口からの林道があり、少し歩くと雪解け際には成長したフキノトウが残っている。林道から歴史を感じる古い石段の参道に戻る。

杉・ブナ等の大木の生い茂る境内の中心には「東鳥海山神社奥宮」があり、「秋田県の山」のコースタイムとほぼ同じペースで、十一時二十五分到着。昔からの言い伝えの「虫札」を頂く

祭事は、この奥宮にて行われたのでしょうか。田んぼの病害虫駆除のため、田の水口に立てると言う習わしが遠く離れた我大仙仙北にもある。私事ですが、夫(佐々木長秀)は、今から六十五年前五才の頃に、今は亡き父と共に参りした念願の「鳥海参り」を、再度果たすことが出来たと言う。サクランボを口いっぱい、ポケットもいっぱい膨らませて帰った「秘密の話」などに思い巡らせながら手を合わす。

奥宮の後方から「日向の清水」と言う標柱を左に進み、山頂(七七七.四m)に向う。そこにはまだ雪も多くあり、山頂の標識を囲んでの撮影は、鎌田委員が担当。

奥宮境内に再び戻り、いっぱい広がったの昼食タイム。改めて二十七名という参加者の多さを実感する。

十二時四十分下山開始。それぞれのペースでの下山でしたが、最後尾を飾つての到着は午後二時十分。

無事解散を終えた後に、八重のヤマブキが美しい里宮本殿に立ち寄る。

田村宮司さんから、丁寧な説明を受け、山頂神社改築の際に下したという宝物の展示してある、直ぐ下の立派な資料館も見せて頂き、全行程を無事終え帰路に着く。

今回の山行は、天気にも恵まれ、想い出深いものであった。そして、お世話になった皆さんへ感謝の気持ちでいっぱいです。

- 参加者 佐々木民秀 福田光子
 田口善信 今野昌雄 柳田勇悦
 鈴木裕子 鎌田倫夫 佐藤博
 大橋忠雄 浅野茂春 石川祐子
 柴田勸 佐々木長秀 佐々木悦子
 安藤金栄 熊谷光子 藤田正義
 会員外 藤原健 柳田レイ子
 柴田路子 吉川昭子 鈴木茂夫
 倉田直美 高橋勝美 須藤かねよ
 鈴木るみ子 熊谷律子



晩餐会記念山行に参加して 佐藤 博

晩餐会の翌日十二月四日、山行委員会主催の記念懇親山行は、箱根古期外輪山の乙女峠・丸岳・富士見ヶ丘公園のコースで実施された。

午前八時、JR新宿西口・工学院大前前参加者約八十名、二台のバスに分乗し出発。山行委員の方から歓迎のご挨拶と日程等の説明のあと、恒例の記念品が配布された。

高速道路の高い防音用の柵が消えると、車窓に新雪で覆われた富士山の雄姿が現れ、参加者を喜ばせる。足柄サービスエリアで休憩をし、出発して間もなく御殿場インターで下り、九時四十分、「乙女峠登山口」に着。ふじみ茶屋があり、正面に富士山が聳え、こは、富士展望遺産の一ヶ所であり、観光客で混雑、全員で記念写真を撮る。

「乙女の鐘」の脇から大行列列よろしく、長い行列の登山開始。再会を喜ぶ声などに賑やかな声が檜林に飛び交う。次第に灌木のきつい登りになると、「先頭、早いぞ。」の声が飛んでくる。登り始めて四十分、乙女峠着。

廃業したのだから、朽ちた茶店が建っている。二〇〇九年の案内書には「この茶店で一休み出来、正面に大きな富士山が仰がれる富士見三峠の一つで、富士山の好展望地である。」と書かれているが、今は樹木が伸び、展望台に登ると枝の間から富士山が展望出来る。

峠を右に下ると、クマザサの茂る広く緩い登山道が急坂になると、灌木からブナ林に変わり、しばらく続く。急

坂を登り切るとアンテナが見え、間もなく丸岳(一一五六m)だ。

その名の通り丸い草原で、大アンテナの無線中継所が建っているが、そこには行かず、全員案内板のある周辺で昼食。足下には仙石原のゴルフ場、神山、駒ヶ岳、明神ヶ岳が見える。山行委員の方々は、昼食の間も、全国各地からの参加者に帰路の途中下車場所や、交通機関の時間調整に飛び廻ってくださっていた。

長尾峠で記念写真



55年前、稲の乾燥の長閑な風景

昼食をすませ、芦ノ湖を眼下に草原の道を下る。急な箇所には鎖があり安全だ。鞍部には木造の展望台があるが、大半の参加者は立ち止まらず、長尾峠へと行く。

長尾峠で右折して、階段を下る。石段は灌木が繋がって、薄暗く歩きにくい。駐車場に出ると、雄大な富士山が裾野まで広がり、疲れを癒してくれる。全員で雄大な富士山を背に記念撮影し、登り返して長尾峠から富士見ヶ丘へとハコネダケの茂る道を登り、灌木の急坂を過ぎれば富士見ヶ丘公園の入り口だ。リュックをデポして十分ほど登り、十三時五十分、一〇四四・九mの三等三角点のピークから裾野を大きく広げた富士山を仰ぎ、富士見ヶ丘公園へ下る。

四時十分、バスは新宿駅へ向け出発。今野支部長・秋田支部の三名は、明日の金時山登山予定地で下車。足柄サービスエリアで休憩し、中央道に入って間もなく渋滞が始まり、次第に混み、バスは新宿到着の予定が立たず、新幹線の指定券時刻まで到着できない参加者が自分の他にもいて、山行委員会の方や参加者の皆さんに大変ご心配をかけてしまった。

今から五十五年前の昭和三十六年三月、職場の仲間たちと御殿場駅から歩いて、今回と同じコースを経て、仙石原から芦ノ湖、小田原と遊んだ思い出のコースであった。五十五年の歳月と温暖化により、樹木は大木となり、何処を歩いても富士山が見えたあの頃の風景を見ることは叶わなかったが、今年も富士山を見ることが出来、計画して下さった山行委員の皆様へ感謝します。

参加者 今野昌雄 佐々木民秀 鈴木裕子 佐藤博

新入会員紹介

佐藤 広文 No.一六一二七

大仙市花館上町一・三十五

昭和三十四年四月九日生

電話 〇一七―六三一―二八六三

入会 平成二十九年一月

紹介者 今野昌雄 鈴木裕子

歩仁内 昌樹 No.一六一九七

秋田市濁川字菅場三・二十四

昭和五十二年十一月二十日生

電話 〇一八―八五三―八〇一三

入会 平成二十九年四月

紹介者 今野昌雄 後藤浩二

新年会を開催

久しぶりに新年会が開催された。第三十二回東北・北海道地区集会終了後、会員の中から、集会の反省会を兼ねて、会員同士の親睦を図るため、懇親会を行ってはどうか、という要望があり、かつては新年会を行っていたことから再開することとなった。

支部だより(1)・(付録1)で会員に呼びかけ、一月二十一日、役員会終了後の午後五時から山王の夢幻海で開催された。

藤田委員の進行、今野支部長のご挨拶・乾杯で始まり、個人山行の報告、山での感動、趣味、近況、笑い話、健康、老後、介護等、お酒を飲んだ解放感からか話は弾み、石川委員のお開きの乾杯があつても、話題は尽きることなく、時間延長をし、笑い声高まる楽しいひと時を過ごした。

- 参加者 佐々木民秀 今野昌雄
柳田勇悦 若月寿 鈴木裕子
鎌田倫夫 佐藤 博 高橋忠雄
石川祐子 柴田 勸 佐々木長秀
安藤金栄 藤田正義 佐藤英實

(支部だより(2)の佐藤英實会員の投稿を参照ください。)



支部会員動向

退会 相沢秀直 (二十九年三月)



おめでとうございませう

佐々木民秀顧問 秋田県スポーツ 功労賞を受賞

長年に渡り、行政関連の登山と組織的登山による活動に専念され、個人的にもあまり知られていない県内全域の山々を探訪し、大石岳や東山中岳などを見出し、登山界に紹介。また、韓国と台湾との登山を通じて国際交流にも長年に渡り貢献。

特に、出生地の秋田・太平山と韓国・智異山を世界初の姉妹山として締結させている。

その他、山岳遭難防止、救助活動などにも長年にわたり携わってきているなど、幅広い登山活動を現在も続けている。

主なる著書に分県登山ガイド「秋田県」があり、県内外の登山者に秋田県の花の魅力を伝えている。共書に「日本の山一〇〇〇」「新日本山岳誌」など多数。

(二月二十四日
キャッスルホテルで授賞式典)

会務報告

◎役員会

○一月二十一日、午後二時三十分から、秋田市中央サービスセンター会議室で開催。

・二十八年年度事業報告及び決算見込みについて
・二十九年年度支部総会に提出する案件を協議

出席者 今野昌雄 鈴木裕子 堀井弘
石川祐子 鎌田倫夫 佐藤博
安藤金栄 佐々木長秀 藤田正義
高橋忠雄

○二月十六日、午後一時三十分から、秋田市中央サービスセンター会議室で開催。

・準会員規程制定の周知及び会員増について
・三十年年度役員改選について
・三十一年度を迎える支部設立六十周年記念行事等について

出席者 今野昌雄 鈴木裕子 堀井弘
石川祐子 鎌田倫夫 佐藤博
三浦真六 安藤金栄 佐々木長秀

◎会計監査

四月一日、午後二時から秋田市アルヴェ市民交流室で開催。
二十八年年度会計決算の監査を実施。

出席者 高橋忠雄 柴田勸
石川祐子 鈴木裕子

太平山遭難捜索に協力

二月十九日、太平山・中岳付近で発生した遭難事故について、中央地区山岳協議会(会長・佐々木民秀)の依頼により、捜索に協力した。
四月二十四日中岳付近で発見通報有。
四月二十五日遺体回収。

秋田支部関係者
十九日～二十一日 佐々木民秀
二十日 今野昌雄
二十日～二十一日 鈴木裕子 石川祐子
四月二十五日 佐々木民秀 今野昌雄

訃報

安藤 武 俊 氏

No.四八六〇 永年会員
秋田支部設立会員
秋田支部名誉顧問

病氣療養中のところ、
平成二十九年四月五日逝去
(享年八十五才)

謹んでお悔やみ申し上げます
本会と秋田支部から、弔電と献花をお届け致しました。
これまでの支部運営のご協力に深く感謝し、心からご冥福をお祈りいたします

